

「むろ」 ～バナナ殺人事件～

「アオシマさん、変死の通報が110番に入りました！」
「マシタ、現場へ急ぐぞ！」

その現場は地下室、室内には熟成しスーパへの出荷を待つばかりのバナナが山積みされていた……。むろん、密室。



「アオシマさん、同僚からの聞き取りでは、害者は一人で作業をしていたそうです」

「バナナに囲まれてか？バナナが喉に詰まっていた様子はないな」

「あのお、お取り込み中恐縮ですが、尾張労基署のダンダです。作業中の事故らしいので調査に来ました」

「労基さんか、悪いけどまだ死因がはっきりしていませんので後にしてくる、その調査」
「あのお、度々恐縮ですがダンダです。犯人、いや、原因はあれじやないでしょ」

うか？」

ダンダ監督官が指差す先には、山積み

のバナナが……。「詰まっ

てないよ、喉には。悪いけど、検

死終わってないし、どこで、邪魔だから、また明日」

「アオシマさん、それ冷たすぎですよ」

「マシタ、余計なこと言うな！」

労働安全衛生法施行令

別表第六 酸素欠乏危険場所（第六条、第二十一条関係）

- 七 穀類若しくは飼料の貯蔵、果菜の熟成、種子の発芽又はきのこ類の栽培のために使用しているサイロ、むろ、倉庫、船倉又はピットの内部
- 八 しょうゆ、酒類、もろみ、酵母その他発酵する物を入れてあり、又は入れたことのあるタンク、むろ又は醸造槽の内部

美味しいバナナ、日本へは東南アジアなどから未熟な青い状態で収穫され運ばれます。これは、海外からの害虫の侵入を防ぐためだとか。輸入されたバナナは、「むろ」と呼ぶ加工室（設備）で熟され（追熟という）、スーパーの店頭に並び、そして我が家へ届きます。

ところで、この「むろ」での熟成方法が、昔と今とは随分と違っています。昔は、バナナを「むろ」と呼ぶ地下室に入れ、室内をガスコンロや炭火で40度に温め、さらに「むろ」上部の木板の上に載せた水の水分、燃焼による水分、地下の水分によりむろ内を加湿していました。これにより、バナナが呼吸を始め、自らエチ

ンガスや炭酸ガスを発生し、熟しました。

この方法では、バナナの呼吸や燃焼による炭酸ガスなどにより「むろ」の内部の酸素濃度が減っていき、酸素欠乏により作業者が亡くなる事故もありました。

また、ガス漏れによる中毒、さらにガス爆発などの危険もありました。

現在では、昔と同様、「むろ」と呼ぶよう

です。が、自動の追熟加工設備が使われており、設備内で人工のエチレンを吹きかけています。もちろん、温度管理、炭酸ガス管理、換気もコンピューターにより全自動で行われています。このため、昔のような危険のおそれはほとんどありません。

「労基さん、いや、ダンダさん。ごめん、やっぱ、バナナだわ」

昔々のお話でした。
（参考…ドローテック株式会社）
HP: <http://www.dohwa-tech.co.jp/> (S.K)